

初等中等教育分科会における主な意見

8月22日(火)開催の第113回初等中等教育分科会における、第3期教育振興基本計画に関する審議経過報告に向けた議論の状況について主な意見は以下のとおり。

【総論関係】

- 第3期の教育振興基本計画の策定に当たっては、第1期・2期における成果や課題を見える化し、それを基に継続する政策や、3期において新しく記述する政策をメリハリをつけて明示してはどうか。
- 資料1-1の「5.教育政策のための基盤を整備する」とあるが、この最初に「学校保健の連携体制の構築」も加えることが必要である。

【各論関係】

- 目標(1)の「幼児期における教育の質の向上」の内容は抽象的でイメージしづらい。分かりやすく具体的に書いてほしい。また、教育委員会と福祉部局の連携、保育士や幼稚園教諭の研修機会の充実が大事である。
- 目標(3)の「学校保健・学校給食、食育の充実等」において、「学校、家庭、地域の専門機関等の連携による保健管理等を推進する」とあるが、その際、医師会、薬剤師会、歯科医師会、教育委員会、学校保健会、専門医会関係者の持つ資源・情報を組織として活用することが重要である。
- 目標(3)に関して、エビデンスに基づく健康な子供の育成という視点から、乳幼児から高校まで省庁横断的な乳幼児健診、就学時健診、学校健診の健康診断のデータの有効活用が大切である。
- 目標(3)に関して、運動しすぎの子供と運動不足の子供の二極化が進んでいること、スポーツを適切に実施するためにスポーツ医と学校の連携を記載してほしい。
- 目標(7)の「家庭の教育力の向上」や「地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進」、目標(15)の「学校教育における学力保障・進路支

援、福祉関係機関等との連携強化」に関し、自治体レベルでの教育委員会と他の行政部門の連携・協働についても明記してほしい。

- 目標（７）「家庭の教育力の向上」に当たっては、保護者の働き方改革も求められるのでその旨追記してほしい。
- 目標（８）グローバル人材の育成が「英語」または「海外」に特化しており、また、目標（９）でイノベーション人材の育成と「理数系」の内容に限定されていることが気になる。グローバルやイノベーションはもっと広く捉えるべきで、原案ではフォーカスが狭められている。目標（８）と（９）は関連しており、さらに、これらは初等中等教育段階から育むことが重要だということを知るようにしてほしい。
- グローバル人材を育成するには人を大事にしながらかかわっていける人間性を育てる学習や子供主体の創造的な学習が求められる。こういった教育を幼い時から積み重ねていくことが大切である。
- この案で示されているE S D（持続可能な開発のための教育）や大学入学者選抜において英語の４技能を評価するため民間を活用するといったことについては、学習指導要領とのリンクをしっかりとってほしい。
- 私立の小中学生に対する支援金のことや、私立学校のI C T支援員、教員用P Cへの補助がないことなどが触れられていない。私立学校が無視されているかのような印象を受ける。
- I C Tは、学校の校務においても教育活動においても基盤であることを明記し、総務省、経産省とさらなる連携を進め、クラウド化やW i - F iの整備など踏み込んだ取組をしてほしい。

【指標等の例関係】

- 特定の形の授業を推奨するような指標ではなく、本来目指す目標を達成したかがきちんと分かるような指標とするべき。例えば、「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行っている学校の割合」などの形式的で機械的な評価指標を示すと、特定の型の授業を推奨することになりかねず、目指す目標と合致しなくなる恐れがある。また、「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」などの主観的な評価指標

は難しいため、引き続き、指標の精査・検討を進めてほしい。

- 指標に違和感がある。例えば、目標（１）確かな学力の育成については、主体的対話的で深い学びを進めるための学校全体の取組を図る指標が必要ではないか。また、指標が型をはめる方向にならないようにすべき。＜主として高等教育段階＞とあるが、目標（５）問題発見・解決能力の修得の指標において「大学の授業が学生の能動的な学修（アクティブ・ラーニング）を促す形態（少人数クラス、演習・ゼミ形式等）」になっていて、型そのものの普及を進めるもので違和感がある。さらに、小中高大一貫した共通の指標も必要ではないか。
- 目標（２）で示されている測定指標候補では人間関係を築く力は測れない。例えば、「グループ活動を楽しいと思うか」などの指標を検討してほしい。
- 目標（７）の指標において、自己評価になってしまうかもしれないが家庭教育力が向上したと思う保護者の割合、PTAが地域や他のPTAとの連携協働ができているかといった指標も検討してほしい。
- 教育機会確保法が成立したが、夜間中学の設置されていない空白地帯も多い。夜間中学の設置が進むよう、何らかの測定できる数値目標を明記し、普及をより支援してほしい。
- 目標（１７）の測定指標の中に教員の学内総勤務時間の短縮とあるが絵に描いた餅にならないよう、管理職の罰則をもうけるなど、教員の勤務時間の短縮が確実に実施されるようにしてほしい。
- 目標（１８）の測定指標候補に「普通教室における無線LANの１００％整備」とあるが、これからのアクティブ・ラーニングのことを考えれば無線LANの有無だけでなく、その速度や安定度も指標に入れてほしい。また、「教員のICT活用能力の改善」が例示されているが、教員がICTを有効に活用して分かりやすく教えられるか、ICTを活用して学びをコーディネートできるかといった指導力を測る指標を入れてほしい。
- 目標（１８）の測定指標候補において、ICTを利活用する上で学習者用コンピュータを３クラスに１台に整備するとあるが、これでは少ないの

ではないか。

- 私立学校では、高速で安定的な無線LANを導入するには財政的に厳しい。学校割引など私立学校への支援も検討してもらう必要がある。

- ICT利活用はあくまで手段。測定指標ではどれだけ条件整備したか、どれだけ教員がICTを使えるようになったかということが示されている。授業がどうなったか、子供がどのような力を身に付けたのかが分かる指標が必要。児童生徒の基礎学力や思考力・判断力・表現力がついたかが分かるといった指標を用いる必要があるのではないか。